

消えた景観、消えゆく景観

八柳修之

景観はそのまま後世に残してほしいが、特に樹木の景観となるとは寿命という自然の摂理により難しい。かつて、藤沢の天然記念物とか景観と呼ばれた樹木の景観が、指定後、現在どのようになっているか、コロナ禍実査は出来ないが可能な限り調べてみた。なお、大庭在住の露木照久さんから貴重な最新情報を得ました。また、景観は維持するばかりでなく人間が創り出した建築、風景、祭りなども語り継ぎ、維持が大切です。以下、写真は断りのない限り筆者撮影

藤沢市指定化財の樹木

藤沢市の天然記念物に指定された樹木には梅、タブノキ、イチヨウ、カヤの木などがあるが、現在どうなっているか見て見た。

石川の梅、石川 836 角田宅 1970 年 5 月、市の天然記念物として臥竜梅が登録された。藤沢市教育委員会が平成 12 年発行した「藤沢市文化財ハイキングコース」12 コースの一つ「石川のウメコース」として紹介され、FWA でも 2008 年、持ち主の了解を得てウォークメイトで見学したことがあった。往時は 3 万粒ほど収穫できたという話であったが、その後、台風のため大枝が折れたため伐採されてしまいました。

梅の経済的寿命は 25 年程度とされるが、剪定次第で 100 年以上の梅もあるという。

梅といえば、大庭在住の露木照久さんの紹介で、2017 年 2 月、大庭の白井さん所有の梅林を訪れたことがある。以前はイチジクを植えていたそうだが梅林に転換、見学当時、樹齢は 30 年ほどで収穫した梅は稲荷の地方卸売市場に出荷、現在も梅は生産されているという。(情報提供：露木照久さん)

台谷戸稲荷のタブの木 大庭 1809 市の天然記念物、1973 年 3 月登録指定、所有者端山清ほか 13 名。

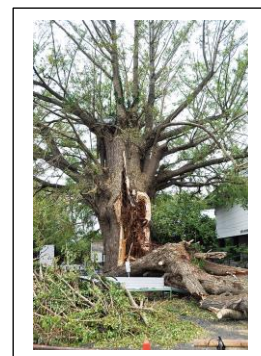
2007 年 12 月 12 月以来、ウォークメイトで数度訪れた。かながわ名木 100 選にも選ばれていたが、その後、100 選からは消失されている。前述、露木さんの情報では、タブの木は朽ちてはいるもののどっこい生きているという。タブの木は暖地の沿海地の林に多い常緑高木。鎮守の森によく大木として育つとある。「春の樹木」菱山忠三郎、主婦の友社)



石川の梅 2008・2



台谷戸稲荷のタブの木 2007・12



遊行寺の大いちょう 2019・10

出典：
タウンニュース
2019・10

遊行寺の大いちょう 1971 年 7 月、藤沢市指定天然記念物指定、西富 1-8 所有者：清浄光寺（遊行寺）

遊行寺のシンボルツリー、高さ 21m、幹回り約 7m、樹齢 700 年とも、一部に乳状突起もみられた。1982 年、8 月の台風により根元近くで倒壊したが、その後、回復した。しかしまた 2019 年、台風 19 号により一部が損傷したがモルタルが詰められ修復された。イチヨウの葉は漢方薬などに用いられるなど生命力が強いから生き続けるであろう。

御所見小学校のいちょうは、御所見の景観に選ばれている。校庭の真ん中に立ついちょうは、小学校のシンボルとなっているが、一般の人には公開されていない。樹齢は 130 年位といわれ、年々、校庭が狭くなる。

慈眼寺の混成樹 1969年2月、藤沢市指定天然記念物、渡内648 所有者：慈眼然寺 モチノキ、タブノキ、シイノキがその根を互いに密着し、あたかも一本の木のように見える珍しい木。健在。

常光寺の樹林 1976年4月、藤沢市指定天然記念物、本町4-5-21 所有者：常光寺

カヤの木は、かながわ名木100選にも選ばれている。樹齢約350年といわれ、健在である。

遠藤宝泉寺のヤマザクラは昭和55年(1980)に指定された当時、樹齢約170年であったがリストから除外されすでに消滅したようである。このほか、藤沢市指定天然物には、江ノ島植物園には4種類の珍しい樹木が指定されているが、未確認である。



慈眼寺の混成樹 2014・9



常光寺のカヤの木 2021・6



御所見小学校の銀杏 2012・12

樹木ではないが、くげぬまらんという蘭が鵜沼海岸の松林で見られた。



しおさいの森 2017・2

鵜沼の地名がついた「くげぬまらん」

昭和10年(1935)、鵜沼海岸で病氣療養をしていた植物生化学者の服部静夫博士が発見したものである。

幻のくげぬまらんと呼ばれており、時折見かけるとい
う。国道134号線と海岸線の間には砂防林があり、くろ
まつもある。しおさいの森と呼ばれる小径があり、例
会のコースともなっていたが、ホームレスが住みつき
歩かなくなってしまった。

わがまち ふじさわ景観ベストテン

2010年(平成22年)、に藤沢市市制70周年を迎えるにあたって、市民のかけがえのない財産である「景観」を
発掘・再認識し将来世代に引き継いでいくこと目的として「ふじさわ景観ベストテン」の選考が行われた。選定
に当たっては、FWA市内13地区のスタッフも参加、協力しました。選定された景観はパンフレットとして発行
され、また記念切手シートも発行されました。FWAは2010年1月からウォークメイトの事業としてこれら選定
された13地区130箇所をあるくスタンプ帳を作成し、藤沢市(景観課)の後援を得てウォークを2010年5月、
スタート、2012年5月には景観まちづくりに取り組む活動団体として評価され藤沢市長表彰を受けました。

130景ウォークは2016年12月完了、この間、延べ6,109人の参加(会員3,956名、FWA3,956名、一般1,501
名、130景完歩者は81名ありました。ウォーカーの要望もありさらに70景を追加、130景と並行して実施しま
した。この項では主としてウォークメイトで歩いた景観のうち、さくら、まつ、ふじのある景観が10年間でど
のように変化したか、見て見たいと思います。



線路沿いの桜並木 藤沢130景、辻堂地区の部の7として選定された。「電車の中からでも見ることができる桜
並木は、通勤する人たちの心を和ませる景観です」との案内書の説明です。この土地はパナソニック工場(約6

万坪)でしたが、跡地に Fujisawa SST (太陽光発電による家庭用蓄電池使用の大型住宅) が建設されたため、敷地内の桜並木は伐採されてしまいました。また、東海道線藤沢～戸塚間の車窓から柏尾川沿いの桜並木が観られ通勤客を楽しませてくれたが、昭和初期に植えられたものであり、ほとんど観られなくなってしまいました。ソメイヨキノ桜の木は樹齢 50 年といわれる。

市役所周辺の桜 藤沢 130 景、藤沢地区の部 9 として選定された。「春には、国道 467 号線から見上げる市役所の土手斜面から、はりだすように桜が咲きます」との説明です。市役所新庁舎の建設により伐採されてしまいました。市役所周辺には若尾山公園にも桜があり、こちらは健在です。若尾山公園を含むこの辺一帯は横浜の若尾幾造の所有地で製糸工場、銀行もあった所です。若尾幾造は毎年、政財界、地元著名人を招待して桜を観る会を開催していました。藤沢の芸者だけでは足りず横浜からも芸者を呼び豪華な宴であったと伝えられます。その芸者も消えました。

伊勢山公園 藤沢 130 景、藤沢地区の部 10 として選定された。「伊勢山公園から江ノ島がよく見えます。古くから桜の名所として、地元で親にしまれてきました」 伊勢山はかつて壁土山と呼ばれ、伊勢参りに出かけることが出来ない庶民のために、西方はるか遠く伊勢の方向を拝めるこの丘の一番高いところに伊勢宮を祀って参拝しました。昭和 2 年に、頂上に市内に散在していた忠魂碑 4 基を合祀し記念の桜を植えましたが、選考当時には樹齢が付き伐採されていました。桜は伐採されてしまいましたが、江ノ島を眺める景観は維持されています。



線路沿いの桜並木：2010・4



市役所周辺の桜：2016・1 大牟田宏氏



伊勢山公園：2010・3 阪本茂義氏

くろまつ



藤沢市の木はクロマツ 1970 年 10 月 1 日に制定された。クロマツは鶴沼で僅かに見られます。鶴沼地区は自然環境保護の意識が強い地域ですが、近年相続問題等で宅地が細分化されるなどの新たな問題が発生しています。

松が岡公園。「鶴沼の原風景である松林がまとまって残っている松が岡公園は、地域貴重な遺産です」と、2020 藤沢市景観課作成ガイドマップの説明です。(以下、案内板の説明)。この公園はもとは村川堅固と長男堅太郎、(親子とも西洋史学者、堅太郎は高校の世界史の著もあったから名前をご存知の方も多であろう)の別荘地でした。堅太郎は周辺宅地化が進む中、昭和 47 年に保存樹林の指定、54 年にはみどりの広場の指定を受けて自然の姿の管理につとめた。こうして松林と広場が残った。松が岡公園は小田急線下り本鶴沼駅、鶴沼海岸駅間左手車窓から見られます。

松並木の続く住宅地。「旧日清製粉の別荘地の名残の松並木。美智子皇太后がまだ幼かったころ、訪れたとも言われています」との説明です。皇太后の生れ育った館林には軍需工場があったため空襲を避けて、昭和 19 年(1944)、疎開されたのでした。鶴沼駅下車海岸通りを海に向かって歩き 4 つ目の角を曲がった辺りには所々に

松並木が残っています。

遊歩道と松とボート。「休日の天気の良い日は、ジョッキングや散歩、サイクリングを楽しむ人々で賑わう人気の場所です」境川の右岸は特に人気です。車の乗り入れは禁止なので安心して歩けます。ボートの係留は安全上の問題から禁止となり現在は見られません。写真の辺りには、かつて紋十郎の河岸（かし）と呼ばれる船着場があり南部の本村、羽鳥に荷を運んだと伝えられる。

鶴沼在住の谷村彪さん 鶴沼・片瀬地区の境川沿いの木々は相変わらず、私の日常に潤いを与えてくれます。



松が岡公園 2010・9



松並木の続く住宅地 2012・2



遊歩道と松とボート 2010・5

ふじ



藤沢市の花は藤です。1970年10月1日に制定されました。藤の藤沢にしたかったのでしょうか。制定から50年もたっているのに観光客を呼ぶようにはなっていません。そう一朝一夕にはいかないようです。

町おこしのため市民団体「藤倶楽部」が結成され「引地川・フジ史跡ロード」「境川・フジ水辺ロード」が策定され、FWAの例会でも数回訪れました。

引地川・フジ史跡ロードは、円行公園（スタート）⇒桐ヶ谷公園⇒なかむら公園⇒二番構公園⇒引地川親水公園⇒大庭城址公園⇒舟地藏公園⇒端山藤園⇒引地川緑地⇒引地川親水公園⇒長久保公園⇒八部公園（ゴール）

圧巻は端山藤園（個人宅、大庭2249）、藤の名人として知られる端山照次郎氏（故人）の作品。150cmもの見事な花房です。端山さんによると、フジロードとして各所にフジが植えられたのは結構なことですが、専門知識を持つ庭師によることが肝心とのこと。端山さん技は伝承されたであろうか。

前述、大庭在住の露木照久さんの最新情報によると、藤ロード太字の箇所の藤は景観が維持されているとのことですが、端山さん宅の藤は代替わりしてから全くダメとのこと。藤の剪定技術の難しさを教えてください。



端山藤園 2016・3 阪本茂義氏



弁慶藤 2018・4 阪本茂義氏



新林公園 2021・5 たなちゃん

境川・フジ水辺ロードは、白旗神社（スタート）⇒御殿辺公園⇒市民病院前⇒遊行寺⇒藤稲荷⇒藤沢市役所⇒サンパール広場⇒奥田公園⇒旧近藤邸⇒新林公園（ゴール） 残念ながら白旗神社の弁慶藤、遅咲きの義経藤を

除き、このコースの藤は見るべくもない。わずかに新林公園の藤には力を入れているようですが、成長には4～5年かかるであろう。藤沢市の地名の由来ともなったと言われる藤稲荷の山藤はすでに消滅。また市民病院前の川沿いの藤をトレリス使用にした藤は消滅。サンパール広場にあった藤も広場の改修によって場所を移したため、かなりの時間が必要なようです。同様、旧市役所旧館にあった藤棚も市役所の立替によって場所を移したため、以前の姿に戻るにはこれも年月が必要なようです。



クスノキは残った

辻堂の景—2 クスノキのある海浜公園通り

「クスノキを避けてつくられた道路であり、茅葺の家と一緒に見ることが出来ます」という説明です。海浜公園に続く道路の拡幅工事で伐採されずに残った「景観を守った好例」。茅葺の家の保存も検討されていると聞く。 以上、